

海外安全対策情報（平成29年度第1四半期：コロンビア）

1 社会・治安情勢

(1) ボゴタ市内ショッピングセンターにおける爆弾事件

6月17日、ボゴタ市内で最も高級なショッピングセンターの1つとされる「セントロ・アンディーノ」の2階女子トイレに仕掛けられた爆弾が爆発し、フランス人女性を含む3名が死亡、8名が負傷した。当局は24日、本件被疑者8名を逮捕（後にもう1名を逮捕）した上で、記者会見において、得られた証拠は、人民革命運動（MRP）による犯行であることを指し示していると指摘した。28日、MRPは、逮捕された9人は、MRPに所属する者たちではないとし、MRPによる犯行を否定する声明を発表した。

(2) FARC離反兵の動向

報道等によると、グアビアレ県、バウペス県北部、メタ県南部、ナリーニョ県トゥマコ市、カケタ県北部及びアンティオキア県バホ・カウカ地区等において、FARC離反兵による活動の活発化が指摘されている。5月3日、グアビアレ県バランキジータ市において、薬物治安対策のため同市で活動中のUNODC職員（コロンビア国籍）が元FARC兵の集団に誘拐されたほか、6月9日、メタ県南部メセタス市の集住地域周辺地域でFARC離反兵とみられる者によって、地雷除去のため活動中のノルウェーのトラックが放火、6月10日、カケタ県において、スイスのコーヒー商社のネスレ社が恐喝に対する支払いを拒否したことから、トラックがFARC離反兵により放火された等の報道が確認されている。

(3) クラン・デル・ゴルフオによる警察官を狙った攻撃の多発

4月下旬以降、麻薬取引等を行う違法武装勢力のクラン・デル・ゴルフオによる暗殺者に金銭を提供しての治安機関への攻撃が多発した（通称ピストル計画）。この計画により、多数の警察官が死亡し、一部市民も巻き込まれた。特に注意すべき地域は、アンティオキア県、コルドバ県、チョコ県、バジェ・デル・カウカ県、ノルテ・デ・サントアンデール県、ボリーバル県、サントアンデール県及びスクレ県とのレポートがある。また、ボゴタ市やメデジン市において、同組織がテロを計画しているとする情報機関のレポートで明らかになった。

(4) 教職員によるデモ活動

5月11日から6月16日まで、全国主要都市において教職員による待遇改善を訴えるストライキ及びデモ活動が実施された。概ねデモ活動は平穏に行われたものの、ボゴタ市においては一部過激化したデモ隊と警察機動隊との衝突や道路封鎖に発展した。

2 一般犯罪の傾向

(1) 犯罪別発生件数

第1四半期（4月～6月）のコロンビア全国における罪種別犯罪発生件数

は以下のとおり（出典：コロンビア国防省統計）。

・殺人	2, 886件
・強窃盗（対人被害）	27, 314件
・強窃盗（邸宅，商業施設被害）	7, 772件
・強窃盗（乗物被害）	6, 666件
・性犯罪	4, 147件

（2）邦人の犯罪被害事案

- 4月13日，ボゴタ市の旧市街において，短期旅行者がスマートフォンで道を確認しながら歩いていたところ，道案内を買って出た男に突然スマートフォンをひったくられた。
- 5月5日，ボゴタ市の旧市街において，短期旅行者がバックパックを奪われそうになったため，抵抗したところ凶器を突きつけられたことから抵抗をやめ，バックパックを強盗に渡した。
- 5月24日，メデジン市において，出張者が取引先関係者の運転する車両の助手席に乗車中，バイクに乗車した3人組の強盗にけん銃の様なものを突きつけられ，貴重品を強奪された。

3 テロ・爆弾事件発生状況

（1）発生件数（4月～6月）（出典：コロンビア国防省統計）

43件

（2）発生事案

報道等によると，国内において，以下のテロ・爆弾事案が発生した。

- 4月9日，グアビアレ県において，麻薬の押収のため活動注の軍のトラックがFARC離反兵により襲撃され，兵士1名が死亡，4名が負傷した。
- 4月10日，メタ県南部のプエルト・コンコルディア市において，恐喝への支払いを拒否した。
- 4月14日，カケタ県北部コリント市で警戒中の軍がELNと見られる武装グループに襲撃され，兵士1名が死亡，2名が負傷した。
- 4月27日，ノルテ・デ・サントアンデール県のベネズエラ国境のパイプラインが，ELNと見られる者により爆破された。
- 4月29日，アンティオキア県サンタ・フェ市において，同県東部を管轄する警察司令官が，何者かによって襲撃され負傷した。
- 5月4日，アンティオキア県メデジン市において，複数の警察官が爆発物により負傷した。
- 5月5日，アンティオキア県北部のウラバ地区で，警察官2名が，クラン・デル・ゴルフオによるとみられる襲撃により死亡した。
- 5月8日，チョコ県アカンディ市において，警察官2名が，クラン・デル・ゴルフオによるとみられる襲撃を受け，1名が死亡，1名が負傷した。

- 5月9日、アンティオキア県北部のウラバ地区で、警察官2名が、クラン・デル・ゴルフオによるとみられる襲撃により死亡した。
- 5月11日、チョコ県メディオ・バウド市において警察官1名が、クラン・デル・ゴルフオによるとみられる襲撃を受け死亡した。
- 5月14日、ノルテ・デ・サントアンデール県カタトゥンボ地区において、石油パイプラインを警戒中の兵士がE L Nとみられる集団に殺害された。
- 6月5日、ノルテ・デ・サントアンデール県エル・スリア市の市長宅において、仕掛けられていた爆発物が爆発した。
- 6月9日、メタ県南部メセタスのFARC集住地域周辺地域でFARC第7戦線及び第27戦線からの離反者とみられる者によって、ノルウェーの地雷除去のため活動中のトラックが放火された。
- 6月10日、カケタ県において、スイスのコーヒー商社のネスレ社のトラックがFARC離反者とみられる者により放火された。
- 6月17日、ボゴタ市内で最も高級なショッピングセンターの1つとされる「セントロ・アンディーノ」の2階女子トイレに仕掛けられた爆弾が爆発し、フランス人女性を含む3名が死亡、8名が負傷した。
- 6月27日、カウカ県ベガ市において、警察官2名はE L Nと見られる武装集団の攻撃により、死亡した。

4 誘拐・恐喝事件発生状況

(1) 発生件数（4月～6月）（出典：コロンビア国防省統計）

ア 誘拐	48件
イ 恐喝	514件

(2) 発生事案

報道等によると、以下の誘拐等事案が発生した。

- 4月23日、在コロンビア米国大使館は、バウペス県のブラジル国境のアパポリス川において、河川スポーツを行っていた米国人3人、フランス人1人及びスペイン人1人の計5人が、FARC離反兵とみられる者によって一時拘束されていたと明らかにした。
- 5月3日、グアビアレ県バランキジータ市において、薬物治安対策のため、集団で活動中の国連職員（コロンビア国籍）が元FARC兵の集団に誘拐された。
- 6月18日、ノルテ・デ・サントアンデール県カタトゥンボ地区のベネズエラ国境に近いエル・タラ市において、オランダ人2名（記者とカメラマン）が誘拐された。20日、E L Nがこれら2名の誘拐を認める声明を発表していたところ、23日、人権委員会に引き渡された。同日、E L Nは誘拐されたオランダ人を解放した旨発表した。

5 日本企業の安全に関する諸問題

政府の継続した治安対策により、ボゴタ市を始めとする都市部では、テロ、殺人及び誘拐の発生は減少し、都市部での治安状況は過去と比べ著しく改善された。しかし、本年1月以降もボゴタ市内で爆弾テロが複数件発生、特に6月17日発生の「セントロ・アンディーノ」における爆弾事件は一般市民が巻き込まれており、警戒を怠ることはできない状況。

また、未だ山間部やジャングル地帯を中心に治安機関及び石油・電力施設を狙ったテロが頻発している。これら地域は、国軍・警察の影響力が低いため、人的・物的被害が絶えない。

昨年、11月24日、新和平合意が署名され、和平合意事項実施のための関連法案の審議が順次行われている。可決された恩赦法が適用されるのは2017年半ば以降となり、恩赦の対象となったとしても、社会復帰が出来ない元ゲリラ兵が一般犯罪に手を染めるなどの可能性もある。また、一部和平方針に従わない離反兵の活動も認められている。

政府と正式な和平交渉を行っているELNも活発な活動が確認されており、今後の和平交渉の進展如何では、更にテロ・誘拐を敢行する可能性は否定できない。

従って、特に地方への訪問については、その可否を決定する上でも、外務省、大使館、現地治安当局より最新の治安情報を入手するよう努めていただきたい。